

ねりまの文化財

一月二六日は文化財防火デー

文化財を火災から守ろう！

一月二六日は第四九回「文化財防火デー」です。この日を中心に、文化財を火災・震災などの災害から守るため、全国各地で防災訓練が実施されます。

大戦後の混乱の中、国宝や重要文化財が海外に流失する危機感がありました。このような退廃した空気の中、昭和二四年一月二六日に法隆寺金堂で失火があり、世界最古の木造建築に描かれた白鳳時代の壁画が焼損しました。また、翌年には金閣寺が火災に遭い、国民に強い衝撃を与えました。そこで、国は昭和二九年に、法隆寺金堂壁画が罹災した一月二六日を文化財防火デーと定め、貴重な文化財が失われないように広く国民に協力をお願いする日としました。

最近では、平成一〇年五月に東大寺戒壇院千手堂が全焼し、重要文化財の木造愛染明王坐像などが被害を受けま

た。さらに、平成一二年五月寂光院本堂が火災に遭い、重要文化財の木造地藏菩薩立像が焼損しました。

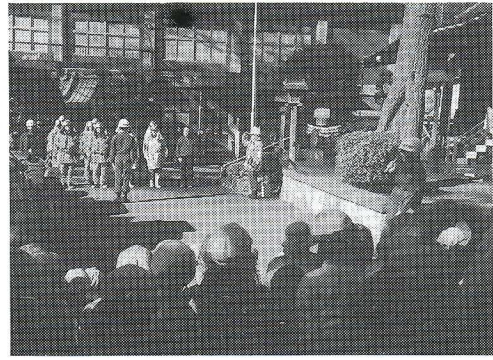
文化財は、先人たちが永年にわたって大切に守り伝えてきたかけがえのない財産です。文化財を平素から火災から守り、次代に伝えていくためには、皆さん一人ひとりのご協力が必要です。

練馬区内でも、練馬・光が丘・石神井の三消防署が次の寺社で防火演習を行う予定です。自由に見学できますので、是非お越しください。

なお、場所と時間についてはねりま区報の一月二二号をご覧ください。

*お問い合わせ
練馬区教育委員会文化財係

練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
☎3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1



今年も 江戸開府 四百年!

慶長五年(一六〇〇)、関が原の戦いに勝利した徳川家康は、大阪城から伏見城へと移り、慶長七年に江戸城に戻ります。翌年の慶長八年(一六〇三)、家康は征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開きました。この年以降、江戸は政治経済の中心となり、町屋や大名屋敷が整然と建ち並ぶ、百万人もの人々が生活する世界でも有数の近世都市として発展していきます。

江戸の人口が増加するにつれて、練馬区の地域は周辺農村として発展しました。武蔵野台地では、水稲耕作よりも畑作に適していたため、新鮮な野菜を生産し、江戸のまちへ供給する地域として江戸の台所を支えました。スキなどが生える野原から、畑と雑木林がならなる景観へと移り変わりました。また、將軍家の鷹狩も行われるなど、江戸府内から近い村々として、江戸文化の影響を受けた生活が営まれました。

石神井城跡発掘調査速報 二〇〇二

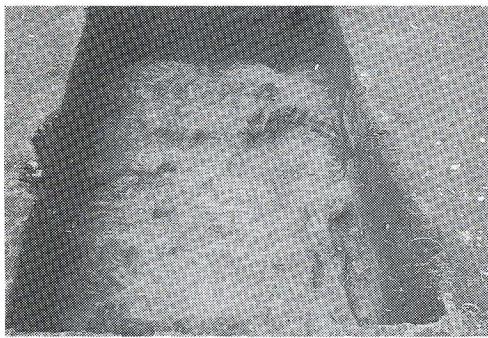
市民参加による石神井城跡の構造解明発掘調査は今年度で、五年目を迎えます。

一九九八年に主郭(城の中心施設)と推定される堀の発掘から始め、土塁・内郭(土塁で囲まれた内側)と調査を進めてきました。これらの調査によって堀は断面U字形の箱堀で、規模は上幅12m前後、深さ4.5m〜5.2m、下幅が推定で2.9mを測ることがわかりました。また、一九九八年に土塁の盛土から十五世紀の常滑焼の底部破片が出土しました。このことは、土塁が修復された時期を示すのか、築いた時期であるのか新たな問題が提示されました。また、土塁の規模は基底幅が16.3mで、現状の高さは2〜3.2mがこつていることがわかりました。さらにこの調査では、土塁盛土の下層から小刀も出土しました。二〇〇〇年と二〇〇一年の内郭の調査では柱穴の可能性のあるピット群が検出されました。この付近からは天目茶碗などの輸入陶磁器片、瓦片などが出土しています。

今年度は、昨年・一昨年に引き続き内郭を調査しました。発掘調査は一月一日から八日、天候にも恵まれ延べ三百人の区民の方々が参加して実施しました。調査した場所は昨年調査した場所の北側の5m×10m(トレンチ1)範囲と昨年調査した場所と今年の調査範囲をつなぐように2m×3m(トレンチ2)の範囲を調査しました。

トレンチ1・トレンチ2とも昨年の調査で発見された畑の畝の様な溝状の遺構が、東西・南北に走っていることが確認されました。特に南北の溝はローム層(赤土)まで掘り込んで、溝と溝の間に赤土を盛り上げ凸凹にしているもので、畑の耕作跡とは異なります。また、トレンチ1の東側隅で、深さ約2mの坑(六八)が発見されました。平面形などは全体を掘っていないため不明ですが、底面は平らで長辺が2.8mの隅円長方形と推定されます。この坑の埋め土層から戦後の茶碗片が出土しており、昭和四二年に発掘調査した遺構が埋め戻されたもので、地下室と報告されている遺構の可能性が

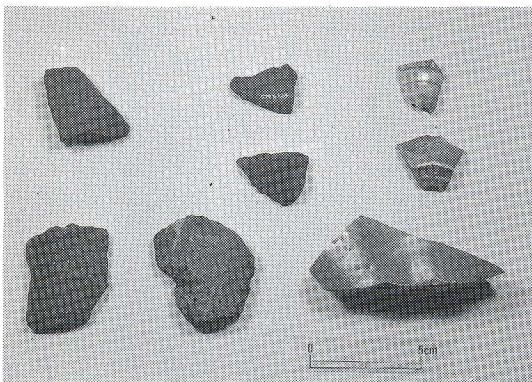
あります。その他、一二世紀から江戸時代までの陶磁器片などが出土しました。



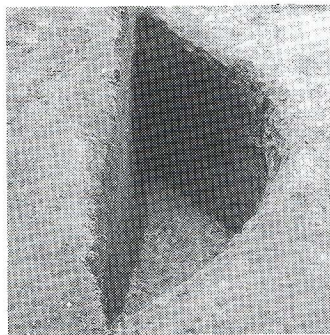
トレンチ2全景



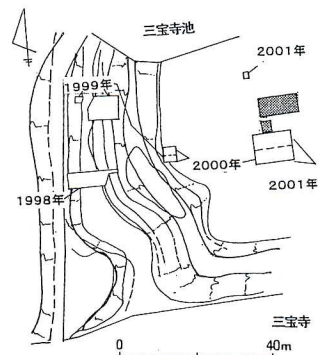
トレンチ1全景



出土遺物



坑



トレンチ位置図

文化財見学情報

区では、練馬区文化財保護条例に基づき、毎年文化財を指定・登録しています。この中で皆さんが見学できる民俗行事と天然記念物をご紹介します。

◇ 民俗文化財 ◇

● 富士塚の山開き

霊峰富士を信仰の対象とし、富士浅間神社参詣を目的に富士講が結成され、江戸時代後半から明治時代を中心に富士塚が各地で築かれました。

- ・ 江古田の富士塚開放・山開き(小竹町一―五九 浅間神社) 国指定重要有形民俗文化財 一月一―三日、九月一日・一五日に富士塚が参詣者に開放され、登山することができます。山開きは六月一日です。
- ・ 下練馬の富士塚・山開き(北町二―四一 浅間神社) 七月一日
- ・ 中里の富士塚・山開き(大泉町一―一八 八坂神社) 八月一日

● 探湯の儀

御嶽神社(中村三―八)で、一月一日、九月一日に行われます。修験者が鉄釜で沸騰させた湯の中に笹束を入れ、背中に熱湯を浴びます。また、火渡りの神事は五月一日に行われます。

● 鶴の舞

氷川神社(氷川台四―四七)の春祭りの行事。三年に一度、神輿が御里帰りと呼ばれて発祥地である「お浜井戸」(桜台六一―三二)に渡御します。雌雄一対の鶴に扮した演者が舞います。今年、三年目にあたり、四月一―三日です。なお、この神輿渡御行列の様子が明治時代の絵馬に描かれています。



鶴の舞

● ちがや馬飾り

八月七日に弁天宮(北町一―三九)の星祭りで見学できます。七夕に飾られるチガヤで作る七夕馬で、この地方一帯の農家で行われてきた民俗行事です。

● 関のぼろ市

本立寺(関町北四―一六)のお会式にもなつて十二月九・一〇日に、門前に市がたちます。江戸時代から始まったといわれ、

昔は正月用品や農具が、現在では古着や植木などを売る露店が並び、近隣から人々が集まり賑わいをみせています。

◇ 天然記念物 ◇

● カタクリ開花

三月下旬―四月上旬
(大泉町一―一六 清水山憩いの森)
約二十万から三十万株自生しているカタクリが半分ずつ毎年交互に開花します。

● フジ開花

四月中旬―五月上旬
(春日町一―三〇 練馬東小学校)
区内最大のフジで、幹は根元部分で最大径一mあります。棚は六m×一六・五mで、全体に蔓がまきついて見学の際は、学校受付に連絡を。

● 三宝寺池沼沢植物群落

国指定天然記念物(石神井公園内)

三宝寺池はかつて湧き水が豊富で、水質がきれいでしたが、昭和四十年代に湧き水量が減少したため、深井戸により地下水を供給されています。現在、貴重植物の保全策が講じられています。ここでは開花する植物のみをご紹介します。

- ・ ミツガシワ 三月―五月
- ・ カキツバタ 五月中旬
- ・ コウホネ 六月―十月
- ・ ミズオトギリ 七月―九月

● 八の釜の湧き水

(東大泉二―二七 八の釜憩いの森)

白子川右岸の湧き水で、台地斜面地の裾部の標高32mの地点にあります。

● 井頭のヤナギ

(東大泉七―三四 大泉井頭公園)

白子川上流域の井頭池があつた水辺に生息しているマルバヤナギ。高さ9m、根元の幹周り約二・二mを測ります。

● 光伝寺のコウヤマキ

(氷川台三―二四)

樹高が一四m、幹周りが二・四mで、区内最大のコウヤマキ。推定樹齢は数百年といわれています。

● 内田家の屋敷林

(早宮三―四一)

屋敷林は石神井川の北の高台にあり、堆肥生産などの雑木林と屋敷の周りに植えられた、防風林としてのケヤキからなる典型的なものです。(路上から見学)

● 練馬白山神社の大ケヤキ

国指定天然記念物(練馬四―二 白山神社)

拝殿前に二株あり、樹齢九百年と推定されています。平安時代末期、源義家が奥州征伐に向かう途中、戦勝祈願に立ち寄つたといわれています。

練馬区文化財保護審議会

委員委嘱(第九期)

文化財は、長い歴史を通じて先人が築き残した文化遺産であり、練馬の歴史・文化の正しい理解に欠かすことのできないものです。また、現代の私たちの文化的・生活の糧であり、これからの文化の向上・発展の基礎となるものです。

○委員一覧

順不同・敬称略

(かつこ内は、専門・主な経歴)

森 公章 新任(古代史・東洋大学教授)

浅井 潤子 再任(日本近世史・元国立史料館教授)

松下 正巳 再任(地域史・早稲田実業学校評議員)

山崎 弘 再任(建築史・工学院大名誉教授)

品田 穰 再任(保全生態学・元文化庁主任調査官)

菅野(鎌田)久子 新任(民俗学・名城大学名誉教授)

柴辻 俊六 再任(日本中世史・早稲田大学講師)

副島 弘道 新任(美術史・跡見女子大学教授)

この度、平成14年12月10日付けで、次の8名の先生方に練馬区文化財保護審議会委員を委嘱しました。任期は2年間で、今期で第九期目となります。

文化財講座

江戸の

まちを見る

徳川家康が江戸幕府を開いて四百年になります(一面参照)。練馬区は江戸の周辺農村として発展しました。江戸遺跡と特別展示から江戸のまちを学びます。

講義と見学の二日制です。

*日時と場所

(講義)二月一三日(木)

午前10時から正午

区役所本庁舎交流会場

(見学)二月一四日(金)

午前10時30分〜午後4時

「新宿六丁目遺跡(出雲国広瀬藩下屋敷跡他)」

「江戸東京博物館(大江戸八百八町展)」

費用など

*特別展見学は実費(四五〇〜九〇〇円)となります。見学は現地集合・移動(大江戸線利用)です。定員五十名(抽選)。

*申し込み方法

往復はがきに①氏名(ふりがな)

②住所③年齢④電話番号⑤「文化

財講座」をご記入のうえ一月二七日(必着)までに区役所文化財係まで、お一人様一枚でお申し込みください。

郷土資料室特別展示

「アニメのまち

『ねりま』

開催期間 3 / 15 ~ 5 / 5

(月曜日・第4金曜日・3 / 28・4 / 25はお休みです。)

お問い合わせ...

郷土資料室 (石神井図書館地階)

TEL 三九九六-〇五六三



財講座」をご記入のうえ一月二七日(必着)までに区役所文化財係まで、お一人様一枚でお申し込みください。